

「狭山ふるさと音頭」「稲荷山さくら音頭」も・・・

## 第35回 民謡のつどい

狭山市民謡協会の「民謡のつどい」が35回を迎え、8月30日(日)狭山市民会館小ホールで開かれました。当日は雨模様でも熱心なファンがつめかけ、日本各地の民謡に聞き入っていました。

8会派90余名が、個人、合唱、合奏と熱演、高齢者が多いが東北等の出身者も多く、レベルは高い。鶴の子会の太鼓、正晃会の津軽三味線、会主の唄声とあり、予定になかった「狭山ふるさと音頭」を千寿会が合唱、「稲荷山さくら音頭」をCDと同じ、三浦はるき、みずきで唄い、PRが出来ました。



式典で、横山文団連会長が、日頃の協力のお礼と、芸術祭の冠「高麗郡建郡1300年」について、当市とのかかわりについて話された。80才以上の出演者12名に、中村正義会長より「奨励章」が贈られ、来年度の更なる精進を念じて閉幕しました。

(狭山市民謡協会 高沢正夫)

## 新登録会員団体の紹介

### 狭山市民踊連盟

民踊連盟では、北は北海道から南は沖縄までの日本各地にある、ふるりの民踊や、たのしい民踊を仲間達と楽しく踊っています。公民館や堀兼にあります寿荘などで、月に2回から4回練習しています。

狭山地元では大きな行事としまして入間川七夕民踊流し踊りがありますが、皆さんも良くご存じの狭山音頭、狭山小唄、狭山茶ばやしの三曲を繰り返し踊っています。



又、春には稲荷山公園の桜まつりや入間基地の大盆踊り大会そして、民踊連盟の発表大会など楽しんでいきます。各地区の盆踊りは、子供たちや大勢の人達が楽しく一つの輪を作りおどります。私たちは、日本の民踊、心のふるさとを忘れないように、これからも小さな輪から大きな輪になるように仲間たちと元気に踊っていきたいと思います。



狭山市民踊連盟 会長 石川千恵子

狭山市民踊連盟は会員132名、市内各地に支部を持つ大きな団体で、支部単位あるいは合同で種々の催しに参加されています。本年春の「桜まつり」では初参加でしたが、客席をぐるりと取り巻いた踊りは圧巻でした。文団連としても、今後の活動を大いに期待しています。

## 常任理事会便り

今年の芸術祭では、高麗郡建郡1300年を記念して、高麗に関する資料展示や古代装束の展示や試着、大ホールでのファッションショーなどを計画しています。そんな中、高麗神社で一般参加可能な「古代装束絵巻」が行われるというので、下見を兼ねて企画公演関係者で参加してきました。ご覧の高句麗装束や韓国ドラマに出てくるような古代衣装を身につけ境内をパレード。一足先に「時の流れ」を実感してきました。本番をお楽しみに。



小川事務局長